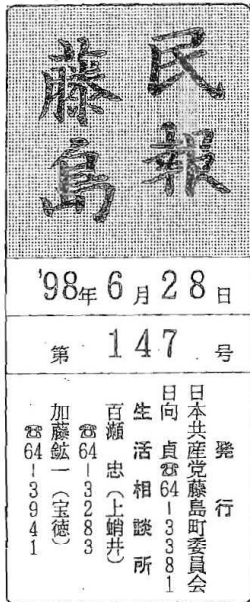


「再掲」吉野文夫 「東栄 小獅子踊りものがたり」



藤島地域の義務教育
学校設立で、小学校の
早期統合が検討され、
渡前小学校と東栄小学
校の廃校が心配です。

東栄小獅子踊りものがたり①

父親が燃えた日

元東栄小教諭・吉野文夫



平成4年3月、卒業式の懇親会
の席で、担任として「右腕が悪
化（職業病の肘腱鞘炎）し、大変
迷惑をかけました。これからは教
師をやめるか、特殊学級にでもと
思っています」と心境を述べま
した。会が盛り上がった頃、父親
たちが席を囲み「先生が東栄小に
やって来て獅子踊りのことを書い
ていたが、あれどうなった」と追
求されました（町議会だより38号

に「子に語り継がれる夢の場をつ
くろう」を記載）。
「あの先生はよくやったけど、あ
との先生しねっけでは困る。よい
事は伝統的に続けなければ。それ
には、地域の人が中心になって本
気でやるならば」。
そこに吉田教頭も論議に参加し
具体化。新年度から取り組むべく
明日、集まることになりました。
（つづく）

東栄小獅子踊りものがたり②

踊りを10分内に

元東栄小教諭・吉野文夫

添川・東堀越の獅子踊りは祭日
が同じなので、お互いきちんと見
たことがあります。そこで、町
保存のビデオを借り、鑑賞するこ
とにしました。両者の共通する部
分をと思いましたが、ダンチキ一
つとっても、太鼓の響きと振りが
微妙に異なり、一つにまとめるこ
とが不可能なことがわかり、両方
の踊りを取り入れることに決定し



たのです。

2時間余りの踊りから、どの部
分を取り上げ、どう繋いでいくか
お互い踊りあい、確かめながら10
分位にまとめあげました。当初は
6分くらいでしたが、練習と発表
を行っていくなかで、現在の形に
なりました。

4、5月の忙しい夜、数回体育
館に集まり練り上げたものです。
ご苦労さんでした。（つづく）

ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

日向富編・歌集「のうぜんかずら」⑩

第14回例会詠草 昭和46年3月26日

長いこと北海道を廻り来て妻家に居り心
やすまる 石川兵一郎

何処よりさがし来たりし白き羽根雀の一
羽巣作り始む 石川鍊太郎

久びさに更くるも知らず語りたる次男は
眠れり窓もる陽受け 太田辰吉

所得税説明会に集まれる主婦らの顔は皆
真剣に 佐藤元蔵

こつこつと牛蒡の皮むく母の背をいたは
るごとく冬の陽のさす 土田昭太郎

おろおろと出入りし飯場も土工する我に
住みよき東京の宿 同人

主のなき庭に咲きたる山茶花をいたはる
ごとき冬の陽のさす 日向良子

「学校は、地域と 子どもの宝」

学校が地域に存在す
るからこそ、無形文化
財の添川獅子、そして
東堀越の獅子踊りが、
子ども達に継承されて
いくのではないか。

そして、地域が子ど
もを育てるのだと言う
ことを再認識したいと
思います。

最初に燃えた父親 たち

東栄小学校に「獅子
踊り」を取り入れるた
めに平成4（1992）
年7月20日、当時の東
栄小学校志田賢校長が、
旧藤島町に提出した予
算要望計画書では、獅
子頭や締め太鼓などの

購入予算が総額100
0万円で、年度当初は
400万円でした。

それを実現させたの
は、最初に燃えた父親
たちの上林次雄さん、
上林豊さん、石向徹さ
ん、齋藤幸治さんの4
人でした。

東栄小学校の「獅子
踊り」に初めて取り組
んだ吉野文夫先生の連
載は、今から27年前、『民
報藤島』に1998年
6月28日号から14回に
わたって連載しました。

吉野先生はこの連載
をもとに、全国教育研
究集会第43次と44次
の2年に渡って、東栄小
学校の教育実践を報告
されました。

吉野文夫先生は20
22年5月30日、逝去
されました（享年88歳）。

挽歌

其二

挽歌（ばんか）

城貞（藤の花）

永訣今年較毎多
哭人別涙損横波
寝興沈痛日盈満
悵怳撫心奈苦何

永訣 今年 毎に較べて多し
人を哭し別涙 横波を損う
寝興 沈痛 日に盈満す
悵怳して心を撫して苦しみ奈何せん

今年はいつもの年に比べて、死者との別れがずいぶん多い。人の死をいたみ泣き、別れの涙で、目元をやつれさせます。寝ても覚めても、悲しみは日ごとにつのります。なんとなく、ぼんやりとして胸に手を当て、つらい思いをなんとしようか。



挽歌 人の死を悲しみいたむ歌。

永訣 死別。

較 比較。

毎 いつも。

哭人 人の死を悼んで泣く。

別涙 別れの涙。

横波 目元。

損 いためる。

寝興 寝ても覚めても。

沈痛 悲しみのため心をひどく痛める。

盈満 いっぱいになる。

悵怳 気が抜けてぼんやりする。

撫心 胸に手を当てる。

苦 っつらい思い。

東栄小獅子踊りものがたり③

試行錯誤の獅子頭

元東栄小教諭・吉野文夫



両獅子踊りも激しい動きなので、そのつど修理をしています。形あるものはいつかは崩れるものですが、出来るだけ丈夫に軽量にできないか、大勢の方々からご意見をいただきました。

シリコン加工を行っている会社「シリカ」社長の草島晴男さん（添川）が獅子踊りにも関係し、よく理解していたのでお願いしました。装飾は添川の太田正士さん、渋谷重吉さん（多くの獅子頭を手

がける）に依頼しました。鶏・雉の毛も生（なま）では臭（にお）いが強く虫が湧き、馬の毛も手に入りにくく、材料には大変苦労したようです。

完成した獅子頭はみごとなものです。学校（10頭）以外には、町役場玄関内と石川菓子店にあります。残念ながら重いため、首に負担が大きいことからあまり使用させないことになりました。

（つづく）

東栄小獅子踊りものがたり④

東栄小の獅子踊りへ

元東栄小教諭・吉野文夫



夏祭り・部落神社の神事としての獅子踊りなのです。その獅子踊りを学校教育にとり入れることは、

氏子・部落民の了解と、学校としては、神事としてではなく郷土芸能として、ワラ細工（老人クラブの方々の指導で毎年行っています）同様に、楽しみながら体験することを願っています。

昔から、地域と家族を守るため長男のみ参加が認められ、現在に至っています。子どもたちにとっ

て、男と女、長男次男も関係なく参加できる、この事が学校教育なのです。

4・5月の忙しい時、獅子踊り実行委員会（全区長・町議員・学識経験者・関係諸団体代表）を開催し、ご理解と協力、ご意見をいただき、全地域民あげて盛り上げていただくことができました。おかげで東栄小学校の獅子踊りとして、踊り伝えることの出発点となりました。

（つづく）

きびちよ



共に初会食だが

総理大臣になった褒美のように、外国旅行の連続だ。それは、決して楽しい仕事ではないだろ。笑顔を作りながらも緊張の連続だろう。しかし、タフだね。

緊張が解けたらぐっと疲れが出たりして。▲それにしても、あまりと言えばジンデネと言いう方がここらにはありますが。あちらはアベ政治の継承者だからと気を許している上に、防衛費GDPの2%前倒しを既に用意しているとして、大いに喜んでいて。そして互いに褒め合いた。

▲何故そんなところまでと思ったのが、ノーベル平和賞に推薦するんだという事。わが首相、世界中から軽く見られりやしないかと思ったよ。現に、何日しないうちに核実験の実施を口にする人なのだ。

核兵器禁止条約が大きく進んでいる世界の空気が読めないのか。自分でも受賞の候補者だと言いながら。

▲しかし今、東京の近くに原子力空母が来ていたんだ。そんな報道があつたんか。ここで彼女、飛び上がったハシャイデいたじゃないの。どんな事を言われて喜んだのか。日本で初めての女性総理だ。の他にどんなお世辞があつたのかネ。当然、ここでの演説も機嫌よく負担は大きく。

▲片や、習近平国家主席とも初顔合わせのハズ。中国との話し合いでは、テレビに総理の笑顔が映らないどころか、緊張が伝わってくる映像。習近平さんは、こうもトランプさんとは違うのかという顔だったのだろうか。

▲中国はお隣さん。笑顔で会える外交に。身の回りはメイドインチャイナだらけヨ。（石川）